

令和6年度東京都立世田谷総合高等学校

学校経営報告

東京都立世田谷総合高等学校長

田 川 健 太

1 当該年度の取組目標等に関する自己評価

取組目標	自己評価
(1) 進路指導・キャリア教育 ① すべての教員が、総合学科におけるキャリア教育の在り方を十分に理解し、その手法について絶えず研鑽を積みながら、一人一人の生徒に対し、学習活動領域におけるあらゆる場面をとらえて実践指導を行う。社会人基礎力を育成するために、NPO等と協働した指導体制を構築する。 ② 各教科間連携を密にし、生徒による課題研究の取組を多角的に支援する。 (数値目標) ・生徒のキャリア教育満足度93% ・課題研究の成果を生かした総合型選抜入試の利用件数25件 (2) 国際理解教育 ① 本校の施設・設備・人材を十全に活用し、世田谷総合高等学校の総合学科としての特色が明確に認知される教育活動を展開する。 ② 有為の外部人材との連携を深め、海外関連の研修・講演会を設定する。ものづくりを基盤にした国際交流を通して主体的な学びを実践する。 ③ 海外学校間交流推進指定校として、フランス・韓国・トルコ・ベトナム・ルワンダ等の交流を実践する。 ④ オンライン交流とともに、対面交流の実現を図る。ものづくりや部活動を	(1) ① NPOを活用した学校設定科目「社会参画」を通して都立総合学科高校をリードする有益な実践が行えた。全ての教職員が総合学科のキャリア教育の充実に取り組んだ。これからの総合学科の在り方を踏まえ、これからのキャリア教育の在り方を検討する必要がある。 ② 全ての教科の教職員が課題研究その他キャリア教育に関わり多角的指導を行った。 (数値目標) ・生徒のキャリア教育満足度91% ・課題研究の成果を生かした総合型選抜入試の利用件数61件 (2) ① ものづくり棟、特別棟、ライフデザイン棟その他特色ある教育活動を展開した。校外への認知についてさらに充実させる必要がある。 ② いけばなインターナショナルへの参加等を通して各国駐日外国公館関係者との関係構築を図り、国際交流に関するノウハウの蓄積が充実した。 ③ フランス共和国への訪問及び生徒受入を行い充実した交流活動を行うことができた。 ④ 韓国とのオンライン交流や中日エジプト大使館関係者との陶芸を通じた交流活動を行った。

基盤とした国際交流イベントに積極的に参加する。 (数値目標) ・国際交流イベント実施件数 15 件 (3) 教科・学習指導 ① 「心身ともに逞しくしなやかに、これからの時代を生き抜く人材育成」に向け、授業力の向上を目指す。 ② 常に生徒の興味関心を喚起し、各教科の学習の中で主体的、対話的で深い学びを推進する。 ③ 教員相互の授業参観をすべての教員が年間を通じて複数回行い、授業力を研鑽する。 ④ デジタル技術を活用した教育活動を積極的に推進するための研修を実施し、全教員が効果的なオンライン授業のスキルを向上させる。 (数値目標) ・各種検定（英検・漢検）2 級レベル取得者数合計 20 以上 ・全教科における教科指導で M365 活用実績 100% (4) 生活指導・進路指導 ① 基本的な生活習慣を確立し、社会人として自立した生徒の育成に取り組む。 ② 規則・規律・マナー・倫理観についての指導を、すべての教職員が共通理解を持って取り組む。 ③ 学校行事や部活動において、創意工夫のある計画を立案し、充実した活動を実現できるよう指導する。 ④ 他者との協働や帰属意識、互いに高めあう集団作りに重点いた指導を実践する。 (数値目標) - 部活動加入率 67 % (5) 教育相談 ① すべての職員が協働して生徒の体力向上と心身の健康づくりを増進させる。	(数値目標) ・国際交流イベント実施件数 14 件 (3) ① 教職員個人及び教科での組織的研修を通して、授業力向上を図った。 ② 教材の工夫により生徒の興味・関心を喚起する授業を実践した。教材の共有など効率的な工夫に取り組む必要がある。 ③ 教員相互の授業参観をすべての教員が年間を通じて複数回行った。 ④ ICT機器の活用についての研修を行い、授業で実践する教員が増加した。 (数値目標) ・各種検定（英検・漢検）2 級レベル取得者数合計 11 名 ・全教科における教科指導で M365 活用実績 95% (4) ① ホームルーム等を通して基本的な生活習慣に関する指導に取り組んだ。遅刻や欠席の一層の減少に取り組む必要がある。 ② 全ての教職員で規律指導に取り組んだ。ルールがある理由を理解させる指導の充実が必要である。 ③ 校外体育館での体育祭開催など、安全第一で工夫した学校行事を実施した。 ④ 部活動や委員会活動等を通して充実した活動に取り組むことができた。 (数値目標) - 部活動加入率 73 % (5) ① 行事や部活動等を通して体力向上と心身の健康づくりの増進に寄与した。
--	--

② 保健相談やカウンセリング体制を教職員・保護者に対して可視化し、柔軟で漏れのない相談体制を整備する。また、スクールカウンセラーとの連携を強化し、校内研修を活用しながら学校全体の教育相談力を向上させ、生命尊重教育をあらゆる機会をとらえて行い、自殺予防に組織的に取り組む。 ③ 自殺予防に関する取組みを組織的に推進する。 ④ 特別支援教育に関する情報・知識を全職員が共有し、適切な対応ができる体制を整備する。 ⑤ アンケート調査等を実施し、校内でいじめや体罰を絶対に許さない風土を醸成する。 (数値目標) いじめ・体罰 0 件 (6) 危機管理 ① 日頃より教員向けのサービス事故防止研修を実施し、サービス事故をゼロにする。 ② 安全・安心な学校であることに最大限の注意を払い学校を運営する。 ③ 防災教育の充実や交通安全推進に力を入れ、危機を回避する手法を身に付ける。 (数値目標) 重大事故事案発生件数 0 件 (7) 広報活動・募集対策 ① SNS等を活用しながらタイムリーに情報発信を行う。学校の特色を紹介し、生徒の学校生活での成果や本校の魅力を積極的に中学生や保護者、都民に発信していく。教職員が各自積極的にホームページ更新に関わり、活発な広報活動を展開する。 ② 各種学校説明会・出前授業にすべての教職員が関わり、入学者選抜における応募倍率を一層向上させる。また、比類ない充実した施設・設備を活用した授業公	②③ 全ての教職員で全ての生徒に関わるという体制のもと、スクールカウンセラーとの連携を図り、生命に関わる事故を防ぐことができた。 ④ 外部機関と連携し特別支援教育の充実を図り、生徒一人一人にとって最適な学びの環境を構築・提案した。 ⑤ 校内アンケートで状況を細かく把握し、未然防止を図った。 (数値目標) いじめ・体罰 0 件 (6) ① サービス事故防止研修を実施した。今後一層の研修の充実が必要である。 ② 警察等との連携を密にし、躊躇ない 110 番・119 番を励行した。 ③ 消防機関や警察等と連携し防災教育、交通安全教育を充実させた。事故・犯罪加害者にならないための指導の充実が必要である。 (数値目標) 重大事故事案発生件数 1 件 (7) ① SNS等を活用して情報発信に取り組んだ。全教職員で逐次発信できる体制の充実が必要である。 ② 説明会等へは積極的に参加した。本校の魅力だけでなく総合学科の魅力の発信に一層取り組む必要がある。 (数値目標) 推薦選抜 1.82 倍 第一次学力選抜 0.98 倍 外部会場での学校説明会 14 件 ホームページ更新回数 450 件
---	--

開や、多様な選択科目の参加体験等を積極的に実施する。 (数値目標) 入学選抜応募倍率 推薦選抜 2.50 倍 第一次学力選抜 1.35 倍 外部会場での学校説明会 15 件 ホームページ更新回数 460 件 (8) 学校経営・組織体制 ① 教職員一人一人が、本校の「強み」をよく理解し、それぞれの立場で積極的に学校経営に参画できる組織を構築する。 ② 全教職員が心身の良好な健康状態に留意しながら、風通しの良い職場環境を作る。ライフ・ワーク・バランス推進し、業務の効率化を図る。また、超過勤務縮小の取り組みを実践する。 ③ 企画調整会議・分掌部会・教科会・教科主任会を活性化させ、意見交換できる環境を整備する。 ④ STEP (PTA 組織) と円滑に連携し、保護者からの理解を深め、学校と家庭の教育環境を整備する STEP と連携して募集対策につながる活動を積極的に実施する。 ⑤ 教職員・保護者・地域との連携の下、安全・安心な学校づくりを推進する。 ⑥ 経営企画室において、学校経営目標を十分に反映した予算編成と適正な事務の執行をする。 ⑦ 教職員及び保護者並びに地域住民等に働きかけを行い、学校における働き方改革を推進する。 (数値目標) 地域との連携事業の実施 7 件 都民公開講座の実施 3 種類 3 講座 時間外在校等時間が 1 カ月当たり 45 時間超の教員の延べ人数 120 人	(SNS、YouTube 等での発信を含む。) (8) ① 教職員が本校の強みをそれぞれ考えることができた。その結果を学校経営に反映させることが必要である。 ② ライフ・ワーク・バランスの推進に取り組み、超過勤務縮小に取り組んだ。教職員間の情報共有に努めたが、校務の複雑さから不十分な場面もあった。 ③ 各会議等では活発な意見交換がなされた。効率的な会議進行に取り組む必要がある。 ④ STEP との情報交換を密にした。 ⑤ 警察等との連携を密にし、躊躇ない 110 番・119 番を励行した。 ⑥ より厳格な予算編成に取り組み、無駄なく執行することができた。 ⑦ 保護者等への情報発信に取り組んだ。一層充実させるため地域との協力体制の構築が必要である。 (数値目標) 地域との連携事業の実施 7 件 都民公開講座の実施 3 種類 3 講座 時間外在校等時間が 1 カ月当たり 45 時間超の教員の延べ人数 182 人
--	--

課題	改善策
(1) これからの総合学科の在り方を踏まえ、これからのキャリア教育の在り方を検討する必要がある。 (2) 校外への認知についてさらに充実させる必要がある。 (3) 教材の共有など効率的な工夫に取り組む必要がある。 (4) 遅刻や欠席の一層の減少に取り組む必要がある。 (5) ルールがある理由を理解させる指導の充実が必要である。 (6) 服務事故防止研修の一層の充実が必要である。 (7) 事故・犯罪加害者にならないための指導の充実が必要である。 (8) 全教職員で逐次発信できる体制の充実が必要である。 (9) 本校の魅力だけでなく総合学科の魅力の発信に一層取り組む必要がある。 (10) 教職員間の情報共有に努めたが、校務の複雑さから不十分な場面もあった。 (11) 効率的な会議進行に取り組む必要がある。 (12) 働き方改革のため地域との協力体制の構築が必要である。	(1) 総合学科の在り方及び本校の在り方を検討する委員会及び研修を実施する。 (2) 全ての教育活動を対象に情報発信を行うことを意識する。 (3) 教科会を通して教材の共有を図る。 (4) 「受けたくなる授業」を実施する。 (5) ルールを守る理由を考える指導を徹底する。 (6) より実践的な服務事故防止研修を行う。 (7) 規則等が存在する理由や守らなければならない理由を生徒に理解させる。 (8) 全ての教育活動を対象に、ホームページやSNS等を活用しながらタイムリーに情報発信を行う。 (9) 総合学科の在り方及び本校の在り方を検討する委員会及び研修を実施する。 (10) 教職員間の連絡を密にし、業務の効率化及び心理的負担の軽減を図る。 (11) 必要な事前調整は行い会議時間を短縮する。 (12) 保護者、地域住民及び都民に教職員の働き方への理解と協力を得るため情報発信をする。